



令和4年度 創造教育開発センター 年次報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

令和4年度（2022年度） 創造教育開発センター活動のまとめ

令和4年度創造教育開発センター長 米田知晃

1. はじめに

本センターは、2007年度（平成19年度）にFD委員会、教育改善委員会等の役割を統合し、発足したセンターである。現在本センターでは、次の項目を業務内容として挙げている。

- (1) 教育改善、FD及び学習支援に関すること。
- (2) 教育課程の調査・検討に関すること。
- (3) メディア教育に関すること。
- (4) 教員間の教育的連携に関すること。
- (5) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

授業評価アンケートの実施、公開授業週間の実施、FD研修会等の企画も継続的に行っている。

以下に、令和4年度に本センターで取り組んだ事項を説明し、今後の課題なども示す。

2. 令和4年度の活動

2-1. 教育改善、FD及び学習支援に関すること。

(1) FD講演会及び研修会について

令和4年度に本校で行った主なFD活動（講演会及び研修会の開催、学外FD活動への参加）は次のとおりである。

- ・ 6月29日（水）に、本校カウンセラーの細田先生を講師としたメンタルヘルス研修会「思春期・青年期の理解—心身の変化を受け止め、受け入れるプロセス」を実施した。
- ・ 11月22日（火）に3名の本校教員によるFD講演会を実施した。
- ・ 11月30日（水）に教務主事による「シラバス作成と成績資料の作成について」の講演会を実施し、その後にワークショップ「今の学生のための高専教育に向けて」を実施した。
- ・ 12月12日（月）に、教務システム教員機能の紹介とするFD講演会を実施した。
- ・ 3月14日（火）にFD研修会「デザイン思考を用いたPBLの進め方」を実施した。
- ・ 3月15日（水）にFD講演会「9月の事案の際の対応について」およびワークショップ「福井高専の学生指導に関して」を実施した。
- ・ 5月30日（月）、11月15日（火）、2月16日（木）に、新任・昇任教員研修会を実施した。9月9日はTPチャート作成を行った。
- ・ 第3ブロックAL推進研究会が、第26回（3月23日（木））に行われ、本センター員が参加し、ブロック内の情報を共有した。

- ・ KOESN フォーラムがオンラインで9月5日（月）、6日（火）に開催され、本校から2名の教員が発表し、本校教員に参加を促した。

これら以外の教員FDに関する研修会、講習会などに参加する教員への支援も継続的に行っている。

（2）公開授業週間

令和4年度は前期が5月16日（月）～20日（金）、後期が12月15日（木）～21日（水）の期間で公開授業週間を実施した。前期に参加した教員は35名、参加授業数は47件、後期に参加した教員は12名、参加授業数は17件、前期または後期の少なくとも1回は公開授業に参加した教員は38名（52.8%）であった。

（3）学習支援について

本センターはこれまでも学習支援に関して教員への支援を行ってきたが、昨年度設置された「学習支援室」との関係により、学習支援する教員への支援についてワークショップの実施などを含めて検討中である。

2-2. 教育課程の調査・検討に関すること。

（1）学際カリキュラムの実施

平成30年度から新しく導入した学際カリキュラムも5年目を迎えた。担当者の打合せは適宜行い、情報共有を図っている。データサイエンス教育の充実に伴い、学際カリキュラムの見直しを検討している。

（2）工学倫理および数理データサイエンス・AI教育プログラムワーキンググループ

昨年度までの「工学倫理」に関するワーキンググループにおいて検討した授業内容、シラバス等を用いて授業を実施した。また、昨年度から数理データサイエンス・AIに関するワーキンググループを発足し、教育プログラムの内容を検討し、令和4年度には、文科省の「数理データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた。

（3）PROGテストについて

令和4年度も担任の協力を得て、3年生、4年生を対象としたPROGテストを12月1日（木）、2日（金）に実施した。また、2月21日（火）、22日（水）にそれぞれ3年生、4年生を対象としたPROGテストの解説会とワークを、3月9日（木）には、教員を対象とした解説会を行った。

今回は、教員向けの解説会が年度内に実施できた。PROGテストの実施は3年目となり、教員向け解説会でも、これまでの結果との比較があり、本校学生の特徴が示された。

PROGテストの結果を今後の進路指導に活かしていきたい。

(4) 授業アンケート

令和4年度の前期は昨年度と同様の方法で授業アンケートを実施した。一方、後期の授業アンケートに関しては、アンケート用サーバーの不調により例年通りに実施できておらず、春休み中に実施したため、やや回答数が減少した。令和5年度からは、実施方法の変更を検討しており、アンケート結果をどのようにして授業改善につなげていく方法についても継続的に検討する。

2-3. メディア教育に関すること

(1) CBTの実施

令和4年度のCBT(Computer Based Testing)は、1年全クラスが数学と化学、2年全クラスが数学、3年全クラスが数学と物理を受験した。さらに専門科目として、3年電気電子工学科が計測を、4年機械工学科が製図、機械設計、力学、熱流体、材料、4年電子情報工学科が計算機工学、4年物質工学科が有機化学、4年環境都市工学科が建設を受験した。今年度も休みを含む12月23日(金)～1月13日(金)の期間で、各自が受験する方式で実施した。

2-4. 教員間の教育的連携に関すること

(1) 教員間ネットワーク会議

令和4年度は、教員間ネットワーク会議の見直しを行い、学際カリキュラムの担当者の打合せや、工学倫理のワーキンググループの活動をネットワーク会議と位置付けることにより、年一回の開催から複数回の開催へと内容を充実させつつ、関連する一般科目及び専門科目、あるいは学科をまたぐ学習・教育目標に関連する科目を担当する教員間の連携を機能的に行うための会議として実施した。

3. 今後の改善課題など

3-1. 教育改善、FD及び学習支援に関すること

公開授業週間への取り組みを検討する必要がある。教務主事団が作成した「授業点検シート」なども上手く使いながら、授業改善の仕組みを考える。

FD活動については、令和3年度実施した「新任教員勉強会」は、「新任・昇任教員研修会」として継続する。

学習支援については、継続してセンターとしての関わり方を検討する。

3-2. 教育課程の調査・検討に関すること

卒業生・修了生アンケートの回収(回答)率の向上については、継続課題とする。

数理・データサイエンス・AIに関するWGは令和5年度も、本校の教育プログラムの充実に向けて検討を継続する。

PROGテストも継続的に実施することを前提として、学生の自己発見・自己啓発および進路指導につなげていくために学内での運用方法について検討する。

3-3. メディア教育に関すること

CBTの活用状況などを共有し、CBTの有効的な活用方法について検討を進める。

BYODについては、物質工学科を除く3年生について実施されており、さらにPCを利用した教育の充実が求められ、先行事例を検討し、各学科での取り組みに活かす。

3-4. 教員間の教育的連携に関すること

教員間ネットワーク会議の在り方も含めて本センターで検討し、継続的に実施している学内WGに学校としての教育改善に繋げる。

目 次

○ 令和4年度FD活動	
・創造教育開発センター主要活動	2
・福井高専のFD等取り組み概要(本校HP)	3
○ 公開授業	
・公開授業週間およびFDレポートのまとめ	5
○ FD研修会(センター主催)	15
○ 教員間ネットワーク会議	35

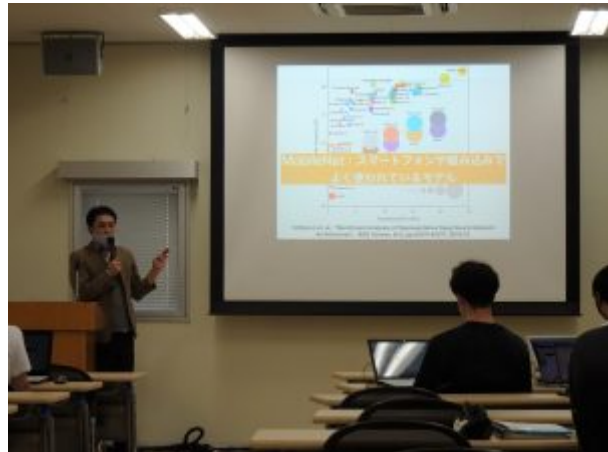
FD 活動

創造教育開発センター関連実施行事【令和4年度】

月	行事内容	備考	月	行事内容	備考
4月	令和4年度行事計画等作成			第7回センター会議(10/25(火))	
	第1回運営委員会・センター会議(4/22(金))		10月		
5月	第2回センター会議(5/31(火))		11月	第8回センター会議(11/29(火))	
	前期公開授業週間(5/16(月)～5/20(金))			教員研修会(学生指導、研究、校務のバランスについて他)(11/15(火))	
	新任・昇任教員研修会(5/30(月))			FD講演会(ハラスメントについて他)(11/22(火))	
				FD講演会(授業に関する講演会とワークショップ)(11/30(水))	
6月	第3回センター会議(6/21(火))			第9回センター会議(12/20(火))	
	FD講演会(教育職員メンタルヘルス研修会)(6/29(水):学生相談室との共同開催)			後期公開授業週間(12/15(木)～12/21(水))	
			12月	PROGテスト(3,4年)	
				CBT(1年～4年)冬季休業期間で実施	
				FD講演会(教員IRワークショップと教務システム教員機能の紹介)(12/12(月))	
7月	第4回センター会議(7/19(火))			第10回センター会議(1/24(火))	
	令和3年度創造教育開発センター年次報告書発行		1月		
8月	第5回センター会議(8/23(火))			第11回センター会議(2/28(火))	
				PROGテスト学生向け解説会(2/21(火)2/22(水))	
			2月	教員間ネットワーク会議開催(8会議)	
				後期・通年科目授業アンケート実施	
				新任・昇任教員研修会(2/16(木))	
9月	第6回センター会議(9/21(水))			第12回センター会議(3/28(火))	
	前期授業アンケート実施			PROGテスト教員向け解説会(3/9(木))	
	FD研修会(TPチャート作成)(9/9(金):新任・昇任教員研修会を兼ねる)		3月	FD講演会(学生指導に関する講演会およびワークショップ)(3/14(火))	
	第2回工学倫理WG(9/28(月))			FD講演会(デザイン思考を用いたPBLの進め方)(3/15(水))	

創造教育開発センターからのお知らせ

「最新AI・データサイエンス活用ワークショップ」を開催しました



6月6日（月）、石川工業高等専門学校 電子情報工学科越野亮准教授を講師にお招きし、本科生・専攻科生および教職員を対象に「最新AI・データサイエンス活用ワークショップ」を開催しました。当日は、51名の学生・教職員が参加しました。

前半は、AI・データサイエンスに関する動向や様々な技術についてご講演いただき、後半は演習を交えながら、Teachable MachineやGoogle Colabなどの最新技術をご紹介いただきました。最新技術を使用することで、より少ない労力で精度の高い結果が得られることから、参加者は自身の今後の研究活動に役立てようと、積極的に学んでいる様子でした。

公開授業

令和4年度「公開授業週間およびFDレポート」のまとめ

創造教育開発センター

1 公開授業の目的と公開授業週間

目的：授業参観時間の拡大を図り、他の教員の授業方法等を参考とする機会を増やすことで、各教員の授業改善の参考とする。

前期：令和4年 5月16日（月） ～ 5月20日（金）

後期：令和4年12月15日（木） ～ 12月21日（水）

2 参観教員数

表1 令和4年度前期公開授業週間参観状況

学科等名	現員数	参観者数	レポート提出数
機械工学科	9	4	4
電気電子工学科	9	5	9
電子情報工学科	9	3	3
物質工学科	11	6	8
環境都市工学科	10	3	3
一般科目教室（自然科学系）	13	10	14
一般科目教室（人文社会科学系）	11	4	6
計	72	35	47
参観率（%）	35/72	48.6%	

表2 令和4年度後期公開授業週間参観状況

学科等名	現員数	参観者数	レポート提出数
機械工学科	9	3	3
電気電子工学科	9	1	1
電子情報工学科	9	1	1
物質工学科	11	2	2
環境都市工学科	10	3	8
一般科目教室（自然科学系）	13	0	0
一般科目教室（人文社会科学系）	11	2	2
計	72	12	17
参観率（%）	12/72	16.7%	

現員数は短時間勤務教員を除く常勤教員数を掲載。

○ 公開授業週間の参観者率の推移（過去4年間）については、令和元年度は前後期通して1回以上参観した教員は60%程度であった。令和2年度後期は新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者率が大幅に減少し約30%であった（前期は公開授業週間を中止）。令和3年度は前後期通して1回以上参観した教員は59.5%で2年前とほぼ同程度の参観者率となったが、令和4年度は引き

続きコロナウイルス感染症の影響からか前後期通して1回以上参観した教員は52.8%にとどまったため、平成30年度(75%)と比較してやや低調の参加者率となった。特に、後期の参加者数が非常に少ないため、日程の変更も含め参加者が増えるように検討を行いたい。また、今後コロナウイルス感染症の影響も限定的となることが予想されることから、積極的に参観して頂くよう働きかけたい。

3 参観したクラス

表3 どの学科・教室の公開授業に参加したか？(前期)

		参観した授業(学科・教室・専攻科)									合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	学際	専攻科	
参加教員の所属	機械	2	1							1	4
	電気電子		6		1		1	1			9
	電子情報			3							3
	物質				3		3	2			8
	環境都市					2				1	3
	自然						13	1			14
	人文							6			6
合計		2	8	3	4	2	16	10		2	47

表4 どの学科・教室の公開授業に参加したか？(後期)

		参観した授業(学科・教室・専攻科)									合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	学際	専攻科	
参加教員の所属	機械	2				1					3
	電気電子						1				1
	電子情報						1				1
	物質				2						2
	環境都市	1				3	2	2			8
	自然										0
	人文						1	1			2
合計		3	0	0	2	4	5	3			17

○ 概ね、所属する学科・教室の授業を参観する傾向にあるが、参観された授業のうち32.9%

が他学科（学際含む）の授業であった。これは令和3年度（12.5%）と比較して大幅な上昇であり、センターとしても、今後も自身の専門領域に拘らずに他学科・教科の授業も積極的に参観して頂くように働きかけたい。

表5 どの学年の公開授業に参加したか？（前期）

		参観した学年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	
参加教員の所属	機械		1		1	1	1	4
	電気電子	3	2	2	1	1		9
	電子情報		2	1				3
	物質	2	1	3	1	1		8
	環境都市			1	1		1	3
	自然	4	7	1	2			14
	人文	1	2		1	2		6
合計		10	15	8	7	5	2	47

表6 どの学年の公開授業に参加したか？（後期）

		参観した学年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	
参加教員の所属	機械	1		1			1	3
	電気電子	1						1
	電子情報			1				1
	物質	1	1					2
	環境都市	1	4	2	1			8
	自然							0
	人文	1	1					2
合計		5	6	4	1		1	17

○ 参観した学年について、令和4年度は前後期を通して件数の多い順に2年生21件、1年生15件、3年12件、4年8件、5年5件、専攻科3件となった。低学年の参観数が多い傾向にある。

	■ 参考になった点(主なもの)							
	板書やプロジェクター・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他
機械工学科					・授業資料をオンライン上で作成しており、学生がいつでもアクセスできるように工夫されていた。		・授業中に学生に声をかけて、理解度を確認していた。(個人作業が多いため)	・レポートのテンプレートを提供することで、課題の本質そのもの(解析結果や考察)に時間がさけるようになっていた。
				製図の作業を見回り、適宜アドバイスをしている。			作業を見回り、進み具合を確認している。	
電気電子工学科		・実習室で大きな部屋であったが聞こえやすい大きさの声で話していた。		・プロジェクト演習の発表会だった。事前にスライドを提出させてスムーズな運営だった。			・発表に対して否定せずに適切な質問を投げかけて発表の目的を意識させていた。	
	・板書の字が大きくきれいで見やすい。 ・最後方の学生に見えるか問いかけて確認されていた。 ・ブラインドを調整して反射に配慮されていた。	・最後尾まで届くよう音量に配慮されていた。 ・聞き取りやすいスピードで話されていた。	・前回課題(演習)の復習から授業に入ることでの学生の理解向上に努めておられた。 ・学生に質問し双方向の授業になるよう工夫されていた。	・学生が板書しやすいよう板書速度や説明のタイミングが工夫されていた。 ・授業のポイントがどこであるのか分かりやすくなるよう板書のレイアウトが工夫されていた。		・課題・演習の時間配分は過不足なく適切であると感じられた。	・与えられた問題を解くだけでなく、学生自らに問題を考えさせるアクティブラーニングの手法により理解度の確認が行われている。 ・授業内に適宜問いかけて応えがあり、学生の理解度を確認しながら授業が進められていた。	
		指導学生に伝わる適度な大きさとスピードであった。		効率的に実習に取り組める実習機器の配置であった。				
							学生の進捗状況を実施内容及び口頭にて確認していた。	1年生の最初の実験テーマになるが、熱心に取り組んでいた。
	板書の字がきれいで見やすいです。 図も大きく書かれており、黒板を3等分して使用されていた。	教員の説明は、この大きさもあり、聞き取りやすかった。						
	図も大きく書かれており、黒板を3等分して使用されていた。	教員の説明は、この大きさもあり、聞き取りやすかった。	前回の復習を入れながら、説明を行っていた。	小テスト、演習、解説と進めていた。			適時巡回しながら、学生の様子を確認していた。	
			前回の復習や2年時の学習内容を振り返っていた。					
電子情報工学科	・必要な要点のみを板書し、大きく黒板を使っていた。	・学生が興味を持ちやすいような話題を例に説明していた。 ・考え方、概念の説明がわかりやすかった。						
		身近な具体例を複数挙げながら説明していた。また、その例が面白く、場の雰囲気良かった。						メモをとるなど、ちゃんとできている部分を褒めていた。出来るようになってほしい点もしっかり説明していた。
	板書が丁寧。 図を使ってわかりやすく説明をしていた。	ゆっくりと聞き取りやすく話していた。	前回の内容を復習しながら話していた。	教科書に対応した話をしており、学生にとっては流れがわかりやすくなっていた。	プリントで小テストのように毎週、理解度を確認していた。		プリントで理解度を確認していた。	
内容がそれぞれまとまっていて理解しやすい。 数10分おきにプロジェクターを使用して学生の集中力を切らないようにしている。	ゆっくりとはっきりと話していた為、聞き取りやすい。注目してほしいときなどは相手に問いかけていた。	授業の最初に学生の体験に基づいた話題(中学時の実験体験や身近なこと)を授業の内容と結び付けようとしていた。前回の内容も触れて学生に思い出させていた。	プロジェクターと板書の使い分けがうまくできており、プロジェクターの動画や画像により、理解が深めている。 説明もより丁寧に、大事な部分と、例の織り交ぜ方が参考になった。	小テストとしてテキストの問題を紙に解答して提出してもらっていた。		小テストにより対応していた。		
物質工学科	・板書の字が大きく、見やすい。	・声を張っていた。	・前回の復習説明は冒頭5分程度(公差、正規分布)	・復習(10:40~10:45) ・はめあいの説明(10:45~11:10) ・グラフ用紙配布、作図実習(11:10~)			・説明時、学生指名による質問・応答(2件)	
	・板書の文字サイズが大きめで読みやすい。 ・必要に応じて図等を板書して学生が理解しやすいように工夫している。	・マイクを使用しており、音量が大きめで聞き取りやすい。	・授業内容について、授業はじめに学生に説明している。				・学生の理解度や進捗状況を見ながら授業を進めている。	

■ 参考になった点(主なもの)								
	板書やプロジェクター・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他
物質工学科	・基本的にはプロジェクター(授業説明をパワーポイントで作成)を使用。文字サイズなどは見やすい。ただ、文字(説明の)しかないで、図などがあるとわかりやすいかとも思う。 ・追加説明をする際は板書で行うが、字が大きく、見やすい。	声の大きさは、後ろに立っていても十分に聞こえる。スピードもゆっくりめで聞きやすく、大変良い。	前週の授業で小テストをしていたようで、そのテストの返却を持って、出席としていた。復習は特にしていないように思える。	6割が説明、4割が演習であった。演習時は、私も見回りを行ったが、教室全体を何度も見回り、できていない学生には動んでお声をかけされていた。その後、回答を(プロジェクターに)表示されたが、解説が少し早かったように思える。	Teams内に授業で使用したスライドをpdfにして公開しているようだ。さらに授業でやる演習以外にも「日々の演習」というプリントを(Teamsで)公開しているようで、授業に関連する問題が公開されている。			
			グループ毎に説明していた。	グループ実験				一斉実験できなくなっていることがわかった。
環境都市工学科	プロジェクトで投影しながら板書を併用するスタイルで授業されていた。丁寧に板書されていた。ただし、添え字が小さくて、後方からは見えづらかった。学生は、配布プリントで確認できていると思われる。	後方からも聞き取れる声の大きさだった。	前回の導入では、前回の授業の復習を行っていた。学生も1週間前の授業の記憶が蘇ると思われる。				式の説明や展開の際、黒板を向きがちなので、もう少し学生の方も確認されると良いと感じた。	
	・板書の字がきれいで見やすい。	・聞き取りやすい声の大きさ・スピードだった。		・学生の進捗状況を確認しながら進めていて分かりやすかった。				
一般科目教室(自然)	・基本的にタブレットを用いて画面を投影して説明していた。 ・教科書との対応がわかりやすい。	学生の反応を見ながら進めていた。					問題を学生に解かせていた。	
	体育館での授業で、教員が説明するのを聞きながらプリントへ書き込む形、教科書も参考にしていった。	たいへん聞き取りやすかった。	プリント配布、出席確認、諸注意	体育館での授業で、教員が説明するのを聞きながらプリントへ書き込む形、教科書も参考にしていった。聞く・書く・読む、3つでテンポよく学生も熱心な様子であった。	プリント、教科書	説明を聞きながらプリントへ書き込む様式なので、演習の側面もあり、うまく工夫されていると感じた。	説明を聞いたことをその場でプリントに出力するという点で、理解度も読み取れるので、すばらしい。	教科書の一般的な運動・生活環境・食事・生活習慣病・高齢者・エネルギー摂取・オートメーション化のことに加え、プリントでは福井県の交通・生活環境・人口などを交えたオリジナルな内容だった。
	板書の文字の大きさがちょうどよく、見やすい。	丁寧に切枚されていた。	学生のテンションをあげるために笑いを取って授業を始めていた。	バランスがよかった。			前回の授業の確認から入っていた。	
	各色をうまく活用していて、要点がわかりやすく、とても見やすかった。	通る声で、非常にわかりやすい。		要点を伝えながら、ゆっくり丁寧に進めていた。	確認のためのプリントを配付し、周囲と相談をさせながら解かせていた。		プリントの問題を解かせることで確認をしていた。	
	・プロジェクターのスライドを使用しており、文字が大きめで見やすい。 ・必要に応じて、スライドを部分的に拡大して、見やすくしている。	・大きめの声、聞き取りやすい声量です。	・授業のはじめに、学習する内容を説明している。授業内容をどのように使うか説明している。		・プリントを配布して、学生が空欄部分に式等を記入する。	・学生がプリント等を書く時間を設けている。学生の進捗具合を見ながら授業を進めている。		
				教員が作成した動画を見ながら、各自のペースで進めていた。	moodleを用いて資料の配布を行っている。			
	字が見やすかった。	後ろまで十分聞こえた。	前回の公式の確認からおこなっていた。				ちょうどよかった。	
	・文字は大きく、色使いも良かった。 ・板書は図式化して、良くまとめられていた。 ・一問一答式で、復習させながら、板書を書き足していた。	・声は小さめだが、ゆっくりとした口調で、聞き取れた。	・導入は健康診断の話で、興味を持たせていた。	・ワクチンの話(時事ネタ)を織り交ぜ説明していた。 ・化学も担当しているので、元素記号なども復習を入れていた。		・途中で、10分程度、演習を入れて学生の気分転換を図った。	・一問一答式で、既習知識を確認しながら進めていた。	

■ 参考になった点(主なもの)

	板書やプロジェクタ・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
一般科目教室(自然)	・図の描き方は丁寧に、丁寧に書くことの意味も伝えていた。 ・今回は図が多かったので、ノートのどの部分に、どれを描くかまで指示し、ノートの見易さまで配慮があった。 ・文字も読みやすく、学生の様子を確認しながら、進めていた。	・落ち着いた口調で、分かり易かった。	・導入は演示実験で、現象のイメージを持たせていた。	・ノートのまとめ方にも注意して、いろいろと丁寧に進めていた。 ・現象をイメージさせるような工夫があった。 ・既習事項を確認しながら、関連付けて進めていた。 ・符号の意味も、現象と対応させてイメージできるように説明していた。	・演示実験では、近くの学生の安全にも配慮していた。	・最後にも、学習内容を実験で確かめるなど、よく準備されていると感じた。	・Formsでの小テストを準備していた。		
	・黒板全面を使い、丁寧に板書。読みやすい。	・ゆっくり目のスピード。学生には聞き取りやすいと思われる。	・適切	・難しい問題の説明を時間をかけて丁寧に進めていた。 ・教科書の問題に手直しして、プラスアルファの情報を提供していた。 ・道具と使用した演示実験を行っていた。これは見習うべき。	・印刷物とFormsの併用。今の標準的な手法と考えられる。	・主に問題の解答解説を行う授業内容だったので、配分について評価対象外。	・一方向の授業だったので、学生とコミュニケーションはもう少しとったほうがいいかも。	・リメディアル教育の実績がある方なので、授業進行は大変スムーズだった。	
	・図を描きながらの式の説明がわかりやすい ・板書の文字が丁寧にみやすい。	・穏やかでゆっくりとしたペースで説明されており、理解が追いつきやすい。	・前回の内容について確認された(デモあり)。	・前回の内容について実験用具を使ってでもされ、どんな学習をしたのかを思い出させた。		・問題に取り組む時間を確保された(授業開始後15分から10分程度)。ヒントも示され、問題の解き方の道筋も事前に説明された。			
	文字の大きさが適切で見やすかった。	もう少し大きな声でもよいと思う。		実験後の授業で実験の内容を振り返る内容だったので学生の理解は深まると思う。			課題を提出させていた。		
	丁寧にあった。簡単に図も描かれていた。		前回のまとめ、補足(理解の不十分な点について、注意を与えていた。)	説明と問題演習。ノートに図を描くことを指示されていた。また、板書を消して良いかどうか、学生に確認されていた。	プリント				学生に問題演習をさせたあと、学生に答えさせていた。また、細かい注意点なども、黒板に色を覚えて、記入されていた。
	授業は板書で進行しており、時折学生から来た質問や発現を黒板に書くことで、他の学生にも理解出来るようにしていた。	ゆっくりとみんなが聞き取りやすい話し方であり、伝わったか分からない場合は学生を指名して、聞いていた。	本当にいないかどうか、名前を呼んで確認を取っていた。	学生と会話などコミュニケーションを取ることで、みんなで授業をやっているような雰囲気が出ていた。それにより、学生も眠くなったり退屈になつたりするのも防げるのではないかと思った。		学生の理解度を測ること、理解を深めるために演習は多めにあり自分も演習の時間を設けるようにしようと思った。(約20分×2回分。)	前の席の人のノートや書くスピードを確認していた。		
	板書が綺麗で文字が読みやすく自分ももう少し丁寧に書くこと思った。また、図も大きめに書いてあり見やすかった。	全員が聞き取りやすい声で、一個一個丁寧に説明をしていた。難しそうなお式でも以前習ったことから繋がりを示していた。	前回の内容と今回の授業の内容の関連性を持たせていた。	学生からの質問を常に受け取り、授業に反映していた。	プリントを配布し、問題を学生と一緒に解いて、内容の理解を深めていた。		学生を指名し、質問などがないか問いかけていた。		
質問が来た際に黒板に書き、全員が分かるようにしていた。	声は大きめで、聞き取りやすく、また、少し早めの喋り方により、集中して聞くことが出来る。	学生に事前に予習をさせてもらうことで、その日の演習課題がスムーズにいくよう工夫されていた。	演習問題をそれぞれ学生が作成し、それを隣の学生に解いてもらうことで、2倍の計算練習ができ、自分なりに考えて工夫することができるので、より理解が深まるよう工夫されていた。また、相談しながら問題を作成することでアクティブラーニングへの繋がりが大きかった。	小テストを学生に作成させてそれをお互いに交換して問題を解いていた。	演習の時間が多く、考える力がより伸びるように思えた。	最後にプリントを回収し、理解して問題を作成していることが先生側も分かるようにしていた。			
一般科目教室(人文)	・写真資料を使って興味をうまく引いていた。	・大教室でマイクを使っていたが、よく聞こえた。	・授業とは関係ない話→授業に関係するクイズやアンケート回答結果の紹介→本編、というように段階的に授業に入っていた。	・事前アンケートを授業の説明に利用していて、学生が自分に関係することとして捉えやすいようになっていたと感じた。	・パワーポイントの図表で大事なものを、字が細かいものをピックアップして、A3両面1枚で配っていた。	・授業後半、課題が授業中に終わらせるように時間を取っていた。	・授業の最後に課題(A4で1枚)を与えていた。		
	・板書の文字が丁寧に、きれいで読みやすい。 ・分かり難い部分、表現について、適宜説明を加えている。学生の理解を助けている。	・声が大きめで聞き取り易い。	・授業のはじめに、当日の授業の目標を板書して学生に示している。	・学生同士(2名一組)が音読して、質問に対して話し合う時間を設けている。		・学生の進捗状況を見ながら授業を進めている。	・文章の内容等について質問を板書して、学生に発表、回答させている。学生の理解度を確認しながら授業を進めている。		

		■ 参考になった点(主なもの)							
板書やプロジェクター・OHPの使い方		教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
一般 科目 教室 (人文)	・板書内容は、講義のテーマやキーワードに限っている。板書内容をもう少し増やすのも一考。一部読みにくいアルファベットがあった。	・学生を指名し、平易な英語で英語発話の機会を与え、かつ理解力把握に努めていた。		・授業の最初に学習内容の要点を板書説明していた。	・アクティブ・ラーニング(学生主体の各種作業)が導入されていた。	・グローバルレベルで使用実績のあるテキストを使用している。	・学生の理解状況を頻りに確認していた。各種作業の時間配分は適切。	・ユーモアのある親しみを込めた英語で学生の理解度を確認している。	・総合的に問題のない授業と判断できた。
	Powerpointを用いていた。文字数が多すぎることなく、適切であった。	十分な声量で聞き取りやすく、スピードも適切だった。学生の意見を聞きながら、臨機応変にそのときの学生の話を展開させながら重要な事柄について説明をしていた。	出席は大講義室で出席番号順に着席し、隣の人がいけない場合に知らせてもらっていた。事前に欠席の連絡をすることになっている。前回の復習は、今回の復習でまとめて行っていた。	事前課題で重要な語句について学生が自分で調べてきて、講義の途中でそれを発表させていた。講師による説明の後には、学生たちが話し合う時間を設けて、その後意見を発表させていた。また、授業後には毎回事後課題があり、学生が講義を振り返るとともに、自分自身に引き付けて考えられるようになっていた。	書き込み可能なレジュメが用意され、Powerpointの講義をメモとりながら聴講できるように工夫されていた。	課題には、事前課題と事後課題があり、学生が自身で学習できるように工夫されていた。時間配分は適切であった。学生たちが話し合う演習時間も十分に設けられていた。	講義で出てくる術語について、その都度学生たちに知っているかどうか確認をとっていた。また、語句だけでなく、その意味の調査ができていた。また、語句の意味を理解して、自分の専門や体験と共に考えているか、学生と話してその都度理解度を確認しながら授業をすすめていた。	社会貢献(地域貢献)は、技術者や組織の、社会における有用性を高めることで持続可能性を強めることというメッセージが、講師の職業経験と共に語られ、現在就職活動など将来について考えている学生たちにとって非常に有益で唆れに富み、今後の技術者としての生き方について指針を与えるような講義内容だった。	
	・板書の字が大きく見やすかった。	・声の大きさにメリハリがあった。		・復習に10分程度時間をかけ、丁寧にふり返りをしていた。		・学生の理解度を高めるようなプリントを複数枚準備していた。 ・話しながらプリントを配布しており、かつ、迅速に配れるよう、列の人数分までまとめていた。			・類似、表象など難解な用語を身近な骨や内臓、花を例えにわかりやすく説明していた。
	・板書の字が大きく見やすかった。	・声が大きく聞きやすかった。		・お子さんの話をし、クラスの雰囲気と和ませていた。	・説明→演習→解説の流れで授業を行っていた。	・学生の理解度を高めるようなプリントを複数枚準備していた。		・質問がないか適宜確認していた。	・具体例を交えて解説しており、学生にとってわかりやすい授業だと感じた。
	・プロジェクターを使ってプレゼンを行っていた。	・声、表情にメリハリがあり、学生の集中力が維持される工夫がなされていた。 ・間の取り方が適切で、学生の英語を理解する助けになっていた。	・全体的に重い雰囲気だったのを見て、ストレッチを行った。それにより、教室の雰囲気が明るくなった。	・学生がプレゼンテーションを行う回だった。聞き手が評価することも重要な点だったようで、まず、教師が評価方法を説明した後、実際に教師のプレゼン例を見せて評価させた。その後各グループのプレゼンに入ったので、以降の流れがスムーズだった。				・学生をよく見て英語を使っており、分らないような学生がいた場合には他の学生に聞く、自分で日本語訳を言うなど工夫していた。	・各グループのプレゼンが終わると、いい点を3点指摘していた。どれも具体的に、学生は満足感を得ているようだった。
	タイマーの動画をプロジェクターで写して学生が時間をわかるようにしていたのが良かった。	はっきりした声で聞きやすかった。発音など、特に意識してはっきり言おうとしているのが伝わった。	プレゼンテーションの前に動画を見せながらストレッチをしていたのが新鮮だった。	学生にプレゼンテーションをさせる前に教員がプレゼンテーションをして学生に評価させていたのが良かった。	フィードバックシートに何を学んだのか、聞きたいこと、評価を書かせていた。	1グループ2分ほどのプレゼンテーション	訳を言わせたり、続いて読ませたりというのを挟んでいて、大事なところで立ち止まれるようにしていた。	教員のプレゼンテーションの例が、学生の興味関心に合っていると感じた。	
		マイクを活用することで、教員の発音の確認をよくできる。	チャイムと同時に授業が開始されていた。年度始めからの授業方法の周知徹底がされていると感じた。	学生の予習が前提の授業で、予習の指導が行き届いていると感じた。	学生の興味のある教材を選ぶのは大変そうと感じた。			学生に、マイクを回して回答をさせていくシステムがよくできていた。学生が緊張感を持って授業に臨むと思う。また、声の小さい学生の発音も聞こえるので、マイクの活用は有効だったと思った。	
	板書の字が大きく見やすいです。	声に芯がありよく通っていた。		学生をリラックスさせて授業を進める配慮が見られた。	プリントを配布して自主的な学習を促していた。		学生に直接話しかけ、理解度をチェックしていた。		
	専 攻 科	パワポが見やすく作られている。文字が大きい。	声大きい。	自己紹介を含めて、課題(背景)を説明している。	PPTを使った一方通行。	なし。	3回分のまとめを課題(レポート)に設定している。		
		議論のための板書に使っていた。、マインドマップのように情報を整理していた。			輪形式の授業で、経産省のロボット白書の内容から選んで調査し、受講者と教員で議論する形式	学生が調査したプリント	議論の深まりの度合いで調整する。	各自の考えを確認するため、それぞれの考え方を発言して整理させていた。	

	■ 参考になった点(主なもの)							
	板書やプロジェクタ・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他
機械工学科	参考になる図面を黒板に貼付していた。	大きい声でゆっくりと説明していた。	部品の全体図の修正点についての説明があった。		油圧シリンダの設計製図のため、油圧シリンダのカットモデルが用意されていた。		図面で指摘した修正点について、全学生に個別に確認していた。	
	・物体の運動について動きを用いたスライドを作成することで、分かりやすく説明されていた。	・学生に板書させる時間を取りながら説明されていた。	・前回の課題の解説を行い、その後、前回の授業内容の復習をした後に始めていた。		・授業プリントと課題プリントを配布していた。			
	学生の質問に対してホワイトボードを使って丁寧に説明をされていた。説明する箇所が大きく描かれており、大変見やすかった。	声も大きく、ききやすいスピードであった。		各自で製図を進め、質問にはホワイトボードを使って丁寧に解説するという流れだった。説明も図を交えて行っており、大変わかりやすかった。		提出された図面へのコメント(チェック)が丁寧にされていた。学生自身、何が良かったか、何がダメだったかがわかりやすく、次に活かせるような授業だと感じた。		
物質工学科	・スライドが簡潔で見やすい。	・授業冒頭、声は小さめ。敢えてそうすることで学生は自然に集中して聴こうとしていた。声の大きさをその時その時で選んで授業をすると良いと思った。	・授業ポイントとして3つ提示し、そのうちの1つは前回の復習になっていた。	・スライドによる説明が主で板書は少し。学生のノート作成のために十分な時間を取っていた。		・途中学生に当てて、黒板に解答を書いてもらっていた。スライドメインの授業だからこそできることであると思った。		
		非常に丁寧にあり大きな声でわかりやすい。	実験に関連したジョークを交えながら学生の興味を引いているところがよい。	実験の失敗しやすいところで、たちどまり丁寧に説明している。	自作の実験プロトコルを作成している。	説明を十分した後、学生の進捗状況にあわせてすすめている。	レポートによる確認	
環境都市工	プロジェクターが明るくて、はっきり見えました。	確認しながら話されていました。	確認されていました。	グループごとに指導教員を割り当て、学生が計画を立てて自主的に行動する。				
環境都市工学科	・字が丁寧(見やすい)。	・声を通る。	・PPTスライドを常に表示していることで、今何について説明しているのか理解できる。	・PPTスライドを用いながら黒板にて補足している。	・完成度の高いPPTスライドが準備されている。(後から聞いたらTEAMSで共有しているとのこと)			
		・声が大きく、聞き取りやすい。						
	・板書の字が見やすい。 ・黒板に書く図もわかりやすい。	・聞き取りやすかった。						
一般科目教室(自然)	・プロジェクタにプリントのPDFを映して、後ろからも字の大きさや色づかいが見やすかった。 ・メモや書きこみの色が変わってあって、重要なところがわかりやすかった。	・声が通りやすく、後ろまでよく聞こえた。 ・スピードは最初は速いようにも感じたが、慣れてくると説明を理解するのに問題がない速さだと思った。	・最初の10分ほどで前回の復習から入っていた。 ・出席確認は演習の時間にしていて学生を待たせないのは良いと思った。	・プリントの例題を考えさせながら説明をして確認をして進めていた。	・プリントを配布していた。	・見学した際には、演習問題は2分ほど時間を取っていた。短いようにも感じたが、わからない子は取っ掛かりもわからないようだったので、説明で理解させるほうに時間を取るというので、バランスが取れているように思った。	・問いかけてクラスの反応を見ながら授業を進めていた。 ・似たような前にやったよね?と前回の関連付けをしているのが良いと思った。	・授業態度が気になる学生には声をかけていた。 ・周りの人と自分が書いたのを確認させる時間を前回の復習の際に取っているのが良いと思った。
	4つのエリアに分けて整然とまとめている字がきれいで見やすい 黒板下端をあまり使用しないため、後席からでも見やすい	発話は明瞭、スピードは普通 物理学に特有の重要ワードについての説明が印象に残った(『場所によって変わらない、ということ』を、物理では『保存している』など)	一人ずつ呼名	見学した範囲では、通常の運営と思われる(取り上げるトピックスに関する教員による説明)	見学の範囲ではなし 教科書の該当部分について示しつつ説明	見学の範囲では課題・演習はなし	説明の合間に、学生の様子をよく見ておられたと思います	皆静粛に受講している 落ち着いた雰囲気 多くの学生は、ノートをとっている

■ 参考になった点(主なもの)								
	板書やプロジェクタ・OHPの使い方	教員の説明(声の大きさ・スピード等)	授業の導入(出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物(小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他
一般科目教室(自然)	・板書の時間を明言してとっていた。		・呼名による出欠確認				・学生が他の強化ですでに習っているとと思われることを確認しながら授業を進めていた。また、それを思い出させていた。	
	・板書を配布プリントと対応させて使っており、プリントのどの部分を進めているのが明確でわかりやすかった。							
	板書のスペースを先に説明しており、ノートが作りやすいと感じた。文字の大きさも後方からでも読める大きさだった。	声も大きく、ききやすいスピードであった。	これまでの復習から入り、今日行う授業との関連性を説明されていた。	配布プリントがあり、要点がわかりやすい授業設計になっていた。単元ごとによりと説明されており、理解を深められるような仕組みが多くあった。	配布プリントを埋めることでノートになるようになっていた。補足の部分はノートに書くという進め方で、後から見返した時にわかりやすいものと感じた。	書き写しの時間を十分にとりながら授業に参加させていたが、ちょうど良い時間配分であった。	その都度、学生の理解を確認していた。質問を投げかける場面もあり、学生も真剣に取り組んでいる印象もあった。	
一般科目教室(人文)	板書の字は十分大きく読みやすかった。	授業初めは聞こえにくかったが、学生が落ち着いてからは聞きやすいスピード、大きさであった。	授業初めに欠席者の確認をしていた。雪で遅刻者もいるような状況であったが、最初にかまくらの話などをして、暖かい雰囲気での導入であった。	他の言語との比較をしつつ、格について説明し、その後、現代語、古典語と進んでいった。最初に説明し、その後演習もあった。冒頭の時間に参加したため、後半は見学していないが、演習から古典語の文法について理解させるような授業が組み立てられていた。	プリントと教科書を用いていた。教科書は、国語総合のほかには文法の教科書があった。	適切であった。	学生に発言させて理解度を確認したり、演習で確認していた。	文法をたんに暗記させるというのではなく、その理解を重視した授業であり、日本語について、または言語について、学生が興味をもてるように工夫されていた。
	・板書の字がきれいで見やすい。	・スピードがゆっくりで聞き取りやすい。		・音読を学生全員にもらうことで授業に積極的に参加させていた。 ・グループワークを導入して自身の考えを相手に伝えながら意見をまとめる時間を設けていた。				
	・大事なことを何色で書くかをあらかじめ周知し、ノートを取るように指示していた。	・聞き取りやすかった。			・学生が理解できているかどうかを確認するため、学生自身に問題と解答を作成してもらう課題がとても良いと感じた。			

FD 研修会

令和4年6月14日

教職員各位

学生相談室長

教職員対象メンタルヘルス研修会の実施について

日頃より学生相談室の運営につき、ご理解ご協力いただき厚くお礼申し上げます。
下記の通り研修会を実施しますのでお知らせいたします。よりよい学校づくりのために学び合う機会となるよう企画していますので、少しでも多くの皆様のご参加をお願いいたします。

記

日 時 令和4年6月29日（水）15：00～16：00

会 場 大講義室

講 師 本校カウンセラー 細田 憲一 氏

対 象 全教職員

テーマ 「思春期・青年期の理解—心身の変化を受け止め、受け入れる」

目 的 思春期・青年期は精神的に不安定な時期であるため、教職員が学生の心の不調に気づき、学生からのSOSを受けとめることができるようになることを目的とする。また、精神疾患や学生のメンタルヘルスに関して理解し、適切な対応ができるようになることを目指す。

終了後には簡単なアンケートを実施予定ですので、ご協力ください。

教職員対象メンタルヘルス研修会(R4.6.29) アンケート集計結果

NO	問1 あなたの感想に最も近い数字に○をつけてください。			問2 本日のセミナーに関する意見や感想などを自由に書いてください。	問3 あなたが今、困っていること、悩んでいることがあれば自由に書いてください。
	①講師の話は分かりやすかった	②セミナーを通じ、今後の参考になることがあった	③今後もこのような研修を開催してほしいと思う		
2	3	3	3		
3	5	5	3	スライドには絵や図が欲しいです。薬は使用しない方が良くわかりました	
4	5	5	5	1.2年生の心的ストレスへの配慮を考えるきっかけとなった	
5	5	5	5	特になし	特になし
6	5	5	5		
7	4	4	4		
8	5	5	5	今昔の時代背景変化を踏まえた説明が分かりやすかった	
9	4	4	4	心理的な発達の段階を知ることができた。群れるから認め合う。	特にありません
10	5	5	5	本校の状況をふまえたご講演でとてもよかったです	まさに頭痛、吐き気で休むことがある学生がいるので指導に生かしたい
11	3	3	3		
12	5	5	5		
13	5	5	5		専門的なメンタルケアの訓練を受けていない教員が学生相談や担任業務を行うことには無理があるのではないかと？昨今の学生気質や、社会情勢が高度、複雑化しているので
14	5	4	4	課題の調整の必要性について伺えたことが良かった	今ではないが、以前担任をしていた時に課題が出せない学生に対し調整の必要性があると感じた。このことが全教員で共通理解していけるとより良いと感じた
15	5	5	5	現場の状況も合わせて話を聞くことが出来た点が良かった	
16	5	5	5		
17	5	5	-		

教職員対象メンタルヘルス研修会(R4.6.29) アンケート集計結果

NO	問1 あなたの感想に最も近い数字に○をつけてください。			問2 本日のセミナーに関する意見や感想などを自由に書いてください。	問3 あなたが今、困っていること、悩んでいることがあれば自由に書いてください。
	①講師の話は分かりやすかった	②セミナーを通じ、今後の参考になることがあった	③今後もこのような研修を開催してほしいと思う		
18	4	5	5	少し難しい言葉もありましたが、ASD気質の子も含め、青年期の学生がどのような気持ちでいるのかを理解できました。今後の指導につなげます	特定の学生のこともですが、お話を聞き、自分の子供が心配になりました
19	5	5	5		
20	5	4	4	ASDといった学生の特性がわからない(判断できない)場合、その対応について、今後教えていただけたらと思います	学生からASDと自己申告されることが多くなってきました。普段通り対応していますが、気を付けることがあれば、また教えていただきたいです
21	5	5	5	「心の理論」の獲得が大きく関わっていると感じました。先生も講演中時間をかけて獲得されたと伺いましたが、同じようにまだ獲得していない学生が学校生活でうまく付き合っているやり方を考えたいと思いました	
22	3	3	3	90分授業や課題の多さに学生が悩んでいることが改めて分かった	
23	5	5	5	具体例もふまえてお話しいただき大変参考になりました。青年期の変化や社会環境の複雑化など、高専の支援も変化していかなければならない時期になったと感じました	特にありません
24	5	4	4	自分の思春期・青年期を思い返すと、割と変化には寛容な性格なのだ	
25	4	5	4		
26	3	3	3		
27	4	5	5		
28	5	5	5		
29	5	3	5		
30	5	5	5		

教職員対象メンタルヘルス研修会(R4.6.29) アンケート集計結果

NO	問1 あなたの感想に最も近い数字に ○をつけてください。			問2 本日のセミナーに関する意見や 感想などを自由に書いてくださ い。	問3 あなたが今、困っているこ と、悩んでいることがあれば 自由に書いてください。
	①講師の話は分 かりやすかった	②セミナーを通 じ、今後の参考 になることが あった	③今後もこのよ うな研修を開催 してほしいと思 う		
31	5	5	5		
32	5	4	5		
33	5	5	5		
34	4	4	4		
35	4	5	3		
36	5	5	5		
37	5	5	5		
38	4	4	4		
39	5	5	5		
40	4	4	4		
41	4	4	5		
42	5	5	5		
43	5	5	5		
44	5	5	5		
45	5	5	5		
46	5	5	5		
47	5	5	5		
48	4	4	4		
49	5	5	5		
50	5	5	5		
51	5	5	5		
52	5	5	5		
53	4	4	4		
54	5	5	5		

【FD 研修会】

令和4年8月18日

教職員各位

創造教育開発センター長

FD 研修会（TP チャート作成）の開催について（ご案内）

このことについて、下記のとおり開催しますので参加願います。

記

目的 TP チャート作成の手法を学び、TP チャート作成を通して教育活動をふりかえり教育改善に役立てることを目的とします。
ティーチングポートフォリオ（TP）および TP チャートについては以下を参考にしてください。

■ティーチング・ポートフォリオ・ネット
<http://www.teaching-portfolio-net.jp/about/>

■TP チャート作成の動画
<https://kayokokurita.info/post-578-2.html>

日時 令和4年9月9日（金） 13：30～16：30

場所 Bラボ（対面形式で実施予定）

対象 教職員

参加申込み 以下の参加申込みフォームより9月2日（金）までに申し込みをお願いします。
<https://forms.office.com/r/2483PDA5J7> ← 参加申込みはこちらより。
ご都合つく方は、ご参加いただくようお願いいたします。
※本研修会は、新任・昇任教員研修会を兼ねて実施します。

◆TPチャート書式（Windows版、Mac版）を下記 Teams 上に掲載します。

[019]福井-ICT 授業勉強会 ファイル-TP チャート作成フォーム

<https://kosenjp.sharepoint.com/:f:/r/sites/ICT161/Shared%20Documents/General/TP%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%BC%E3%83%88%E4%BD%9C%E6%88%90%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A0?csf=1&web=1&e=GwjgEq>

FD研修会(TPチャート作成)兼新任・昇任教員研修会参加者アンケート(まとめ)

FD研修会(TPチャート作成)

開催日: 令和4年9月9日(金)

【参加者数】7名

【回答者数】7名(回答率100%)

1. FD研修会(TPチャート作成)の内容について、どのように感じましたか？
・参加して良かった 7名 ・あまり良くなかった 0名

2. 質問1. で「参加して良かった」と答えた方に、どのような点が良かったかを、簡単に結構ですので、お書きください。

自分の教育理念を再確認することができた。

自分の教育に対する姿勢を客観視することができたから。また、先輩教員の先生から、教育に関する有用な情報が得られたから。

話したことのない先生と話す機会がえられた。
他の先生の考えを知ることが出来た。

授業等で実践していることがどのような目的・意図があったのか改めて再確認することができた。

数年前にもTPチャートを作成したが、今回の研修会に参加するまでは「前回と同じような結果になるのでは？」と考えていた。しかし前回のチャートから数年間で、前回よりも幅広い視点から学生の指導について考えられるようになってきたのだなと今回のチャートを見て確認することができた。自分も教員として成長できているのだなと今後の指導の励みになった。

振り返りができた

それぞれの項目(責任欄、目標欄など)についての説明が明確にあり、日ごろの授業についての振り返りをしっかりできた。普段会話をすることがない教員との会話もすることができた。

3. 今回のFD研修会に参加して、TPチャートや TP および TS についての理解が深まりましたか？
・理解が深まった 7名 ・あまり良くわからなかった 0名

4. 今回のFD研修会に参加して、TPを作成したいと思いましたか？
・TPを作成したい 0名 ・時間があれば(時間が合えば)、TPを作成してみたい 5名 ・当面は作成することはない 0名

5. FD研修会で、今後、どのような内容を希望されますか？(任意)

各分野ごとに教員が集まり授業内容の「紐付け」をする時間があれば良いと思います。そのような機会を通して低学年を教える教員は「将来こういうことを発展的に学習するために今これを勉強しているんだよ!」、高学年を教える教員は「低学年の時にこの内容について勉強したよね?」とそれぞれ自信を持って学生に言うことができるようになります。学生にとっては学習の意味がわかり、知識の定着状況が改善すると思います。

TP等が昇任時に必須ということになると、TPを作らないといけない・・・という仕事が増えるという認識で敬遠されがちになると思うが、長水先生がおっしゃるように、昇任時にXXに置き換えることが可能、TPを業績として加えることも可能、といったようになると取り組む姿勢も変わってくると感じた。

基本的に自分の学びになることばかりですので、今回実施して下さった内容のようなものでありましたら、特にはありません。

【FD 研修会】

令和 4 年 10 月 28 日

教職員各位

創造教育科発センター長

FD講演会の開催について

日頃より創造教育開発センターの運営につき、ご理解ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

下記の通り FD 講演会を実施しますのでお知らせいたします。よりよい学校づくりのために、学生指導の一助となるよう企画していますので、少しでも多くの皆様のご参加をお願いいたします。

記

日 時 令和 4 年 11 月 22 日(火) 教員会議終了後

会 場 大講義室

発表者 村田 知也 講師(電子情報工学科)
FD ワーキンググループ「ハラスメントについて」

相場 大佑 助教(一般科目教室)
1 学年担任報告「低学年の担任として」

千徳 英介 准教授(機械工学科)
4 学年担任報告「今年度のインターンシップについて」

目 的

近年、高専を取り巻く状況も変化し、入学する学生及び保護者の気質が以前とは変化していることは感じられていると思います。そのため、学内での様々な問題点や気づきについて、情報共有を図り、学生に対する適切な指導と共に、効率的に業務を遂行するための気づきや改善点の提案などにつながることを目的とする。

令和 4 年 1 月 1 5 日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センター長

令和 4 年度 F D 研修会（授業に関する講演会とワークショップ）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内 容：授業に関する講演会およびワークショップ

1. 講演会 「シラバス作成と成績資料の作成について」

授業に関するシラバスを作成することが当然のことになっています。それでも、どのように対処すればいいのか迷うこともあるのではないのでしょうか。成績資料を作成するときも同様です。どうしてこのような資料が必要なのか、疑問を感じる部分も多いのではないのでしょうか。今回の講演会では、シラバスおよび成績資料の作成について改めて説明をし、参加者からの疑問、困った事例などについてどう対応していくか、一緒に考えていきたいと思えます。

2. ワークショップ 「今の学生のための高専教育に向けて」

わたしたちは、学生が卒業するときには学生として自律して欲しいと考え、日頃の授業や学生指導を実施しています。しかしながら、自分で考え行動することが出来ない、指示がなければ行動出来ない、自分が置かれている状況に対して適切な対応が出来ない、というような心配な学生が増えていることを感じます。

学生が成長し、適切な能力を身に付けて、卒業することが求められていますが、基準に満たない学生を安易に不可とすることも難しい一方、安易に合格点を与えることは間違った学習効果を生むことにもつながります。入学している学生の資質に変化が生じていることもあり、現在のわたしたちの教育方法では、課題だけをこなせばよいというような考え方を持つ学生や、目の前のことだけに熱心で将来のことを考えない学生を増やし、十分にポテンシャルを引き出せていないのかもしれない。

このような学生の現状について、不安に思っていること、不満に思っていること、学生指導でこんなふうな工夫をしてうまくいった、失敗をした、あるいは学生指導で困った事案がありどう対応していけばよいのかなど皆様からの意見を出していただき、意見交換をすることで、皆様の中で学生指導についてある見解を出していければ、というワークショップにしたいと考えています。

日 時：令和 4 年 1 月 3 0 日（水）15：00～16：30

開催場所：大講義室

対象者：教職員

参加申込：当日受付



<FD 研修会開催通知>

令和 4 年 1 月 2 4 日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センター長

令和 4 年度 F D 研修会（教学 IR ワークショップと教務システム機能の紹介）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内 容：教学 IR ワークショップと教務システム教員機能の紹介

1. 教務システム教員機能の紹介
説明者：バリエントソフト（株）SE による機能紹介
現在、構築中の教務システムの教員機能を紹介します。現在、試行中の段階で、各先生方からの操作やデータ入力等は、まだ行えませんが学生検索、成績入力、出席管理などの機能をご覧いただき、今後の運用に向けてのご意見等いただければと思います。（30～45 分程度）
2. 教学 IR ワークショップ
IR (institutional research) は、教学マネジメントの柱のひとつであり、今後、学校をマネジメントしていくときの必須のものです。本校では、教務、入試関係のデータが多くあるため、今後しばらくは IR の中心として教務・入試関係について展開していくこととします。今回は、アセスメント・ポリシーに基づいたアセスメント・プラン（案）を紹介し、学生指導を実施するときどのようなデータが必要で、どのようなデータなら活用可能か、情報交換を行いたいと思います。

日 時：令和 4 年 1 月 1 2 日（月）16：30～18：00

開催場所：大講義室

対象者：教職員

参加申込：当日受付



FD講演会

- 教学IRワークショップ

2022/12/12

教学マネジメントとは



• 教育に求められている教育の質の転換 :

高等教育機関についての学生の育成は

- 「何を教えたか」から、「何を学び、身に付けることができたのか」への転換
- 「学修者本位の教育」

• 教学マネジメントとは :

- 定義「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」
- 大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営み

教学マネジメントの確立



• 教学マネジメントの確立：各高等教育機関には

- ・卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（以下「三つの方針」という。）に基づく体系的で組織的な大学教育を展開し、その成果を学位を与える課程（学位プログラム）共通の考え方や尺度に則って点検・評価を行うこと
 - ・不断の改善に取り組むこと
 - ・学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用すること
 - ・適切なPDCAサイクルが必要

教学アセスメント



- 3つのポリシーとFD活動の体系化：教育の質保証のため、3つのポリシーを定め、教員の質保証のため、FD活動の体系化が重要。
- 教学アセスメント：「学生の学びと成長に関わる各種データおよびデータの収集・分析・活用方法の総称」
 - ・文科省が進める「高等教育の質の保証システム」に含まれる。
- 教学アセスメントの方針：「学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針」

学習成果の可視化



- **学習成果の可視化**： 教学アセスメントでは、AP,CP,DPそれぞれについて「学校レベル」「学科・専攻レベル」「科目レベル」で学習成果の可視化を求められています。（これをアセスメント・プランと考えてよい。アセスメント・プランはアセスメント・ポリシーを基に作成）
- **PDCAサイクル**： 本校では、教務委員会、専攻科委員会等でデータ収集を行い、教育改善が継続的に実施されていることを「自己点検評価報告書」にまとめ、その結果を学校運営会議で報告し、さらに教育システム推進委員会にて、さらなる改善を行うために、各委員会、学科等に改善計画を策定し、PDCAサイクルを展開します。

教学IR実施の方針



- **教学IR実施の方針**：
 - IR（institutional research）は、教学マネジメントの柱のひとつ
 - 学校をマネジメントしていくときの必須のもの。
 - 本校では、今後しばらくは教務・入試関係を中心にIRを展開する

組織について



- IR戦略室 = 経営者層
 - どのようなデータが必要か（学校をどのように運営していくか、で必要なデータが変わってくる）
 - データの分析（外部に依頼？）
- 教学IR実務WG = 実務者層
 - データを収集する

振り返りシート

福井高専

今回の研修会を踏まえて、以下の①～④の順で記入してください

○各高専で教学IRを実施するにあたって

① 必要があると思う取り組み

- ✓ 教職員の働きやすさについてのデータ収集・分析
- ✓ 教員に対する研究面、教育面、校務面での意識調査
- ✓ データ分析者の確保・育成
- ✓ 学生データを収集・分析しフィードバックするためのシステムの構築
- ✓ アセスメントプランの作成
- ✓ 教務システムでの統計分析

② ①を実施する際に自高専でできる取り組み

- ✓ アセスメントプランの作成
- ✓ 学生データを収集しフィードバックするためのシステムの構築

○今後(具体的に)

③ 自高専でできない取り組み

経営層	IR組織
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教職員の働きやすさについてのデータ収集・分析 ✓ 教員に対する研究面、教育面、校務面での意識調査 ✓ データ分析者の確保・育成 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学生データに関する教務システムでの統計分析

④ IR組織として、③を実現するための具体的な案

- ✓ アウトソーシング
- ✓ 高専機構本部からの専門家の派遣
- ✓ 教務システム拡張の予算獲得

IR準備室でデータを集める手段（例）＝経営者層からの依頼

動機

教職員の中で時間的にも精神的にも多忙感が年々高くなっている。教職員業務の効率化および平準化を図ることで時間的・精神的な余裕をもち、教育研究について各教員の得意な分野へのリソースを増やす環境づくりが必要であると考え。このような環境が構築されることで、教職員の教育や研究についての意欲が高まるだけでなく、学生指導の質の向上につながる。と考える。

戦略

これまで教職員の勤務状況・勤務環境に関するデータ収集や意識の調査は体系的に行われてこなかった。また、教職員が経営層に対し、勤務状況やその環境について自身の意見や考えを継続的に述べる機会が設定されてはいなかった。そのため、そのようなデータを収集・分析・活用・蓄積する体制を構築する。

方策

教職員に対して定期的・系統的に勤務状況調査と意識調査を行い、データを収集・分析しながら勤務環境の向上に資するデータをまとめる。データを用いて様々な視点から効果的と思われる助言・提案を検討する。経営層や学科長・教室主任に対し、データをもとに勤務環境の改善の議論を進めるための支援する資料を提供する。

成果

経営層・学科長・主任が分析されたデータを用いてIR部門が提供するデータを活用しつつ、定期的・継続的に教員の勤務状況・勤務環境や校務の負担についての議論を系統的に行うようになる。教職員の勤務環境や校務の効率化がデータを基に行われるようになる。その結果、教職員の勤務環境や状況に対する負担感が改善され、教育研究の各分野の資質向上に資するリソースが増える。

到達目標

教職員の業務に対する負担感が時間的・心理的に軽減され、教職員が自身の専門とする教育研究分野について費やすことができるリソースが増える。その結果、教職員の校務・教育・研究に対する意識が向上し、学生指導の質の向上につながる。

<FD 研修会開催通知>

令和5年2月27日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センター長

令和4年度FD研修会(学生指導に関する講演会およびワークショップ)の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内 容: 学生指導に関する講演会およびワークショップ

1. 講演会「9月の事案の際の対応について」

昨年の9月に本校であった事案について、どのような経過で、どのように対応していったのか等について報告します。

2. ワークショップ「福井高専の学生指導に関して」

年度末を迎え、今年度の学生たちの様子はどうだったでしょうか。

- ・学生を指導していて今までにない経験をした。こんなふうに学生指導をしたらうまくいった。
- ・低学年の指導と高学年の指導の連続性や違いについて思うところがある。
- ・学習支援室や第二学生相談室で、こんなふうに学生が変わっていった。
- ・学生寮、学生相談室、保健室等とどんなときに、どんなふうに連携をとっていけばいいのかわからない。

等々、皆様から意見を出していただき、意見交換するワークショップを開催し、今後の学生指導に繋げていただきたいと思います。

日 時:令和5年3月14日(火)13:00~14:30

開催場所:大講義室

対象者 :教職員

参加申込:当日受付



<FD 研修会開催通知>

令和 5年 2月21日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センター長

令和4年度FD研修会（デザイン思考を用いたPBLの進め方）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

日 時 : 3月15日（水）10:00～12:00
講 師 : TSUGI llc. 代表・クリエイティブディレクター 新山直広氏
タイトル : デザイン思考を用いたPBLの進め方
開催場所 : 大講義室
対象 : 教職員
参加申込み : 3月13日（月）まで
準備の都合もあり、以下の Teams により事前申し込みをお願いします。

<https://forms.office.com/r/BMKsYVCA0b>

TSUGI は鯖江市河和田を拠点として活動する「地域特化型デザインスタジオ」として、支える・作る・売る・醸すを軸に、グラフィックデザインをはじめ、商品開発、販路開拓までを一貫して行っています。その代表として、また、デザイナーやディレクターとして活躍されている新山代表に今回の FD 研修会の講師をお願いします。

※詳細については改めてご連絡いたします。

（参考）

<https://tsugilab.com/>

代表・クリエイティブディレクター 新山直広（にいやま なおひろ）



教員間ネットワーク会議

令和4年度教員間ネットワーク会議 出席者

所属学科・教室名 会議番号1, 2-3, 3, 4は, 右記の WG・打合せ会議で 兼ねる	1.社会及び技術者 倫理に関するネット ワーク会議	2-1.数学に関する ネットワーク会議	2-2.物理に関する ネットワーク会議	2-3.情報処理に関 する ネットワーク 会議	3.専門・複合科目 に関するネットワー ク会議	4.デザイン教育に 関する ネットワー ク会議	5.コミュニケーション 教育に関するネット ワーク会議 *ブレ ンゼンテーション教育 を含む
	工学倫理WG			数理・データサイエ ンス・AI WG	学際科目担当者打合 せ	プロジェクト演習打合 せ	
座長	米田	堀川	千徳	亀山	樋口	亀山	藤田卓
一般科目教室 (当該教科・科目)	佐藤・木村 ・川畑 (社会)	中谷・井之上 (数学・応用数学)	山田・長谷川 ・挽野・土田 (物理・応用物理)	相場		長水	藤田卓 (英語・国語)
機械工学科	金田	加藤	千徳・高橋	亀山	芳賀・亀山	藤田・亀山	村中
電気電子工学科	米田	堀川	松浦	米田・丸山	堀川・米田・佐藤	秋山・西城	荒川
電子情報工学科	青山・斉藤	波多	波多・村田	川上・西	斉藤・高久・西	青山・川上	小越
物質工学科	古谷	坂元	西野	佐々	山脇・佐々	川村・松野・高山	後反・松井
環境都市工学科	大和	蓑輪	辻野	大和	樋口・辻野・奥村	奥村・芹川	吉田

発行日 令和5年8月

編集 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
創造教育開発センター

発行 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL : 0778-62-1118 <https://www.fukui-nct.ac.jp/>